



23ha(東京ドーム5個分)もの
広大な面積を有する
聖パウロ学園高等学校の学校林

みなさんは学生時代、学校にお気に入りの場所はありませんでした。私は、自動販売機と壁の間のちょうどいい隙間にすっぽりとハマり、甘ったるいレモンティーを飲みながらひたすらボーっとしたり英単語覚えたりするのが好きでした。学校によっては、生徒の創造力や思考力を育む「空間」を計算して創り上げているところがあります。今回は、聖パウロ学園高等学校の「パウロの森」を紹介します。

「パウロの森」

パウロの森は、八王子市の北高尾山地に位置し、23ha(東京ドーム 5個分)もの広大な面積を有する聖パウロ学園高等学校の学校林で、2007年に国土緑化推進機構のモデル学校林に認定されました。

パウロの森は、かつて里山として使われていた森で、林床には季節ごとにいろいろな山野草が咲き誇る自然豊かな森です。この豊かな森には、カブトムシ・クワガタ・アサギマダラなどの昆虫やシジュウカラ・ヤマガラなどの野鳥、タヌキ・サルそしてムササビなどの動物たちが暮らしています。

聖パウロ学園高等学校は、カトリック系の学園として、1948年に創設され、1972年に現在地八王子市に校舎

が移転しました。建学の精神は、他人への思いやりに満ちた人間形成を原点とした教育です。

聖パウロ学園高等学校をつつむ大きな森「パウロの森」は、ゆとりの中で学ぶ理想的な環境を創り出しており、聖パウロ学園高等学校が誇るものの一つです。この森を整備し豊かな自然を維持するために、そしてこの森における森林環境教育の輪を広げるために、地域住民と連携した取り組みをしています。

安全を担保しつつ、自然体験授業、地域・大学との連携など様々に活用

パウロの森では、授業の一環として自然体験授業【パウロ・ネイチャー・プログラム(PNP)】を実施しています。専門インストラクターの指導の下に行うので、安全対策もバッチリです。

また、麻布大学と連携し、植物・動物の標本製作などを行う探究ゼミフィールドとして活用したり、「パウロの森くらぶ」という団体を結成し、学園生徒、市民の方々、小中学生たちの自然体験学習や遊び場として活用したりしています。自然をベースに、様々な人たちと触れ合えるこの環境は、他では決してできない唯一のものと言えます。

馬術、陶芸…「本物」を体感できる贅沢な環境

聖パウロ学園高等学校には、馬術部があります。厩舎と公式競技規格の馬場があり、20頭ほどの馬と過ごしています。陶芸も、陶芸家が特別講師として作成を指導しています。



体育館は2種類、グラウンドも広大

2020年、2021年と続けて人工芝の屋内練習場、体育館が新設。放課後には、様々な部活動の活気ある声が漏れてきています。

郊外の地のメリットを存分に生かし、他では決してできない体験ができる聖パウロ学園高等学校。こういった「空間」のある学校こそが、思考力・創造性に溢れる生徒を輩出していくのだと思います。



聖パウロ学園高等学校
ホームページ→



筆者紹介 北岡 優希

「教育を、“裏”から伝えていく。」ノイタキョード代表・しゅともしのオンデマンドプロデューサー・私立学校の広報補助などいろいろやっています。雑誌「shuTOMO」「myTYPE」で「教育キーワード」という連載もしているのでご興味ある方はそちらもご覧ください。ごきげんばんだ・なめこなどキャラものが好き。

